

大人のための情報モラル通信 SNS等におけるネットリンチについて

大人のための情報モラル通信は、子どもたちの安心・安全なインターネット利用に向けて、学校の先生方と保護者のみなさま、地域のみなさまに「大人としてできること」を考えていただく為の資料です。

インターネット上では頻繁に炎上が発生しています。令和7年10月にはある高校生が回転寿司店で迷惑行為を行い、その様子をSNSに投稿して大炎上しました。

迷惑行為は許されないのですが、それと同時に、炎上した人に対して「**ネットリンチ**」と呼ばれる過度な批判や中傷、個人情報の晒し行為なども発生しがちです。



「人は**悪意よりも“正義や義務（社会的な使命感）”を信じたときに残虐になりやすい**」…長い歴史を通じて、多くの哲学者や思想家が同様の言説を残しています。

前述の炎上でも、これを体現するかのようなネットリンチが発生しました。「相手が悪いことをしたら何をしてもよい」という考えは、**正義をはさ違えた暴力**です。

★ネット上の行動が現実の社会的責任につながる★

ネットリンチをする人は「**悪をこらしめる**」ため多数で執拗に攻撃し、相手を精神的に追い詰めます。そして、自分たちは「**バレない安全圏**」にいると錯覚しています。

しかし、安全圏にいたはずの人たちは、ネットリンチを行つたことにより警察の取り調べを受けたり、裁判で訴えられたりしています。「バレない安全圏」というのは**錯覚**なのです。

ネットリンチで個人情報を晒されたり、誹謗中傷されたり、脅迫されたりして**自ら命を絶つ人も**います。結果として自分と相手に何が起こりうるかを考えて行動する必要があります。



子どもたちは炎上を含む“SNSで話題の内容”に関心を寄せ、「**多数**」を「**正義**」と勘違いし、臆することなく書き込むケースも少なくありません。こうした背景を理解し、「**ネット上の正義**」が**必ずしも本当の正義ではない**ことを伝えることが重要です。